

Press Release_施設概要

2020年07月10日

弘前れんが倉庫美術館

(青森県弘前市 吉野町)



©Naoya Hatakeyama

美術館について

弘前れんが倉庫美術館とは

弘前れんが倉庫美術館は、明治・大正期に建設され、近代産業遺産として弘前の風景を形作ってきた吉野町煉瓦倉庫を、建築家の田根剛が改修し、2020年7月11日にグランドオープンします。

築100年におよぶ煉瓦の建造物の耐震性能を高めつつ、残せるものは可能な限り残し「記憶の継承」と「風景の創生」をコンセプトにもつ建築空間では、その魅力を最大限に生かした国内外の先進的なアートを紹介するとともに、弘前そして東北地域の歴史、文化と向き合う同時代の作品を収集、展示します。また、施設にはスタジオも備え、地域の人々が集い、創造するコミュニティの場としても機能します。現代アートを通して、地域と世界を結び、多様なヴィジョンと豊かな感性に触れ、過去から現在、そして未来へと繋がる新たな創造性を喚起するクリエイティブ・ハブ（文化創造の拠点）を目指します。

館名について

「吉井酒造煉瓦倉庫」そして「吉野町煉瓦倉庫」として地域のなかで呼び親しまれてきた場所の記憶と歴史を、建築とともに未来へ継承したいという想いのもと「弘前れんが倉庫美術館」と名付けました。また同時代の文化芸術のための美術館であることを世界に発信するため、英語表記を「Hirosaki Museum of Contemporary Art」としました。

美術館の特徴

展覧会プログラムの企画や、作品収蔵などの諸活動において、次の2つの特徴を生かします。

サイト・スペシフィック（場所性）

ー「創ること」「見せること」「収蔵して歴史に残すこと」

建築や地域に合わせたコミッション・ワーク（新たな作品制作）を重視し、完成した作品を展示し、さらに収蔵するという一連の流れによって、弘前ならではのコレクションを形成します。

タイム・スペシフィック（時間性）

ー 異なる展示のリズムと柔軟な空間の使い方

従来の美術館がもつ常設展示室、企画展示室という固定的な運用にこだわらず、煉瓦倉庫の可能性を最大限に生かした自由で柔軟な方法で空間を運用し、年間プログラムを構成します。また展示される個々の作品も、短期から長期まで、異なるリズムで展示します。

プログラム

プログラムについて

年間プログラムは3つのシーズンで構成されます。春夏、秋冬の2シーズンは美術館企画を開催し、冬シーズンは映画上映やパフォーマンスなどの特別イベントのほか、市民の様々な活動にも使用されます。

1. 春夏シーズン（美術館主催の展覧会）
2. 秋冬シーズン（美術館主催の展覧会）
3. 冬シーズン（美術館主催の企画や一般主催の企画など）

*2020年度の冬シーズンは新型コロナウイルスの影響による展覧会会期の変更により中止

弘前エクスチェンジ

本プロジェクトでは、主に以下の内容を予定しています。

- ・ 弘前出身や縁のあるアーティスト、地域の歴史や伝統文化に新たな息吹を吹き込むアーティストらを招聘し、滞在制作や調査研究、地域コミュニティとの関係性を通して行う様々なプロジェクト。
- ・ 美術館の活動から派生する人々の幅広い関心や、クリエイターたちの多様な表現に継続的に応答する取り組みとして、トークやレクチャー、ワークショップといった各種パブリック・プログラム。

「エクスチェンジ」（交換）という名前に込められたように、本プロジェクトはローカルとグローバル、作り手と地域の人々そして鑑賞者といった異なる視点が交差し、ふれあい、交換される場を生み出すことで、新たなアプローチにより地域の創造的魅力的再発見へ繋げることを目指します。

建築



©Naoya Hatakeyama

建築 | コンセプト「記憶の継承」

— 先人の記憶を受け継ぎ未来をつくる建築

国内では近代産業遺産を壊し、世代から世代へと受け継がれた土地の記憶を失い続けていくなか、明治・大正期に建設され、日本で初めて大々的にシードルを生産した場所として、弘前の風景をつくり続けてきた、吉野町煉瓦倉庫が「世界のアート」を体験できる美術館に改修されました。

耐震補強や様々な制度による制約があるなか「記憶の継承」をコンセプトに、老朽化や経年によって傷んだ外壁を修復し、分厚い漆喰で覆われた内壁を剥がして煉瓦に戻し、床は「赤煉瓦」で覆いました。一方で、老朽化した屋根は「シードル・ゴールド」の菱葺屋根にし、光によって移ろう輝きが新たな美術館のイメージを創出しています。

煉瓦倉庫の記憶を継承し、いまあるものを未来の時間へと引き延ばすような建築は、この弘前でしか体験することのない世界でたったひとつの美術館となりました。

建築 | 未来に繋げる「延築」

— 新築でも増築や改築でもない、延築によって過去と未来を繋ぐ

古い建物を直すために部材を検証し、製作当時の技術や素材を研究し、既存の煉瓦壁の状態をチェックしました。黒ずみや白化などの表層の状態や破損状態を読み解いて、高圧洗浄・磨きや解体煉瓦や再製作煉瓦による埋め戻しなどの修復技術を採用しました。

過去と対話しながら未来に向けた建築を思考し、既存の建物を修復・保存するだけでなく、煉瓦の新たな使い方を発掘し、新築や改築でもない「延築」という建築を編み出す術を模索されています。

建築の特徴

シードル・ゴールドの屋根

光の反射により様々な色相を呈する屋根は、シードル工場の記憶を次の世代へと継承し、これからの未来を創り出すシンボルになります。

エントランス煉瓦 「弘前積みレンガ工法」

入口が押されることで空間的に歪みが生じ、人を招き入れる形になります。北国だからこそ、包み込まれるような温かなエントランス。

既存煉瓦壁を現す

分厚い漆喰の内壁を剥がし建設当時の煉瓦を露わにしました。異なる時の素材が同時に存在し時間の蓄積が体感できる空間を目指しました。

既存煉瓦構造補強 PC鋼棒

既存煉瓦壁を無傷で保存する為に、高さ9mから鋼棒を煉瓦に串差す工法を採用、煉瓦壁を内外無傷のまま残すことが可能となりました。



©Naoya Hatakeyama

田根剛 [建築家]

1979年東京生まれ。Atelier Tsuyoshi Tane Architectsを設立、フランス・パリを拠点に活動。2006年にエストニア国立博物館の国際設計競技に優勝し、10年の歳月をかけて2016年秋に開館。また2012年の新国立競技場基本構想国際デザイン競技では「古墳スタジアム」がファイナリストに選ばれるなど国際的な注目を集める。場所の記憶から建築をつくる「Archaeology of the Future」をコンセプトに、現在ヨーロッパと日本を中心に世界各地で多数のプロジェクトが進行中。主な作品に「エストニア国立博物館」（2016年）、「Todoroki House in Valley」（2018年）、「とらやパリ店」（2015年）、「LIGHT is TIME」（2014年）など。フランス文化庁新進建築家賞、フランス国外建築賞グランプリ、ミース・ファン・デル・ローエ欧州賞2017ノミネート、第67回芸術選奨文部科学大臣新人賞、アーキテクト・オブ・ザ・イヤー2019など多数受賞。2012年よりコロンビア大学GSAPPで教鞭をとる。

ロゴ

弘前れんが倉庫美術館

HIROSAKI
MUSEUM OF CONTEMPORARY
ART

弘前
れんが倉庫
美術館

HIROSAKI
MUSEUM
OF
CONTEMPORARY
ART

コンセプト

ロゴ上部の図形は弘前の頭文字「H」であり、人々の記憶が積み重なった煉瓦倉庫が美術館に生まれ変わる過去から未来へと続く時間軸のイメージです。上下に移動しながら流れていく文字は、美術館の中を巡り作品と出会う心の動きにも通じるものです。文字列の変化に合わせて上部の「H」も伸縮する、有機的なデザインが特徴のロゴです。

| 服部一成 [グラフィックデザイナー]

1964 年生まれ。ライトパブリシティを経てフリーランス。主な仕事に「キューピーハーフ」の広告、雑誌『流行通信』『here and there』『真夜中』のアートディレクション、三菱一号館美術館や新潟市美術館の VI 計画、ロックバンド「くるり」のアートワークなどがある。毎日デザイン賞、亀倉雄策賞、ADC 賞、東京 TDC グランプリなどを受賞。

施設概要

1 階平面図



展示室 1 : 249㎡

展示室 2 : 209㎡

展示室 3 : 294㎡

受付（市民ギャラリー） : 165㎡

約15mの展示用壁面を備えており、企画展示や市民による展示等も行える空間

※展示に使用できる場所は、美術館の特徴である「タイム・スペシフィック」の考えに基づき、時期により館内の他の場所となる場合があります。

スタジオ A : 22㎡

3DプリンターやPCを備えたワークショップやクリエイティブな制作活動に特化したスタジオ

スタジオ B : 71㎡

スクリーン、プロジェクター、大型ミラーを備えており、映画・映像の上映やダンスレッスン等に適したスタジオ

スタジオ C : 12㎡

アンプ、スピーカー、電子ドラムセット、ミキサーを備えており、楽器練習や演奏に適したスタジオ

2 階平面図



展示室 4 : 249㎡

展示室 5 : 227㎡

ライブラリー

（サークル活動スペース/キッズコーナー） : 300㎡

※2020年度は2階ライブラリーの壁面一部を市民ギャラリーとして利用します。

パブリック・スペースとギャラリー・スペース

無料で入場できるエリアには市民のための貸しスタジオ（有料）、ライブラリー等があり、所蔵作品の一部も展示されます。有料の展示室エリアは、1階面積が752㎡、2階面積が476㎡。大きな吹き抜け空間とコーラタールで塗られた黒い壁面が特徴です。展示室とともにスタジオやライブラリーなどの機能を併設することで、市民の創造性を喚起し、弘前の新しい文化創造の拠点として機能します。

基本情報

- | 住 所 : 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1
- | 開館時間 : 9:00-17:00
但し、金曜日・土曜日に限りスタジオ、ライブラリーのみ21:00まで開館
- | 休 館 日 : 火曜日（祝日の場合は翌日に振替）、年末年始
- | アクセス : JR 弘前駅より
- 徒歩 約20分
- タクシー 約7分
- 弘南バス・土手町循環100円バス「中土手町」下車 徒歩 約4分
- | ウェブサイト : <http://www.hirosaki-moca.jp>
- | SNS: Instagram : @hirosaki_moca
Twitter: @hirosaki_moca
Facebook : @hirosaki.moca

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川（公）

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp

〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

FAX:0172-55-5982 または E-MAIL press@hirosaki-moca.jp

2020 年 7 月 10 日

弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市）

施設写真 広報画像貸出書

▼貴媒体についてお知らせください。

| 媒体名

| 貴社名

| ご担当者

| 所属部署

| ご住所 〒

| 電話番号

| FAX 番号

| E-MAIL

| 掲載・放映の予定が決まっていたらお知らせください。

▼広報画像は、希望される画像の番号に「○」で印をつけてください

外観

[1]



[2]



[3]

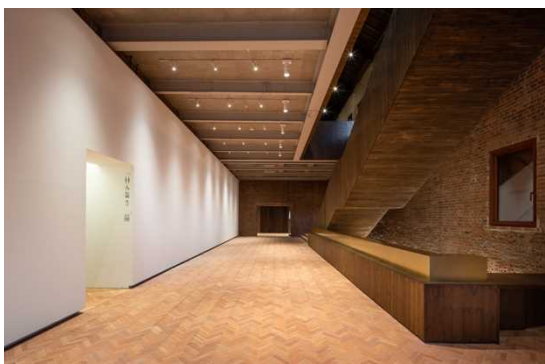


[4]

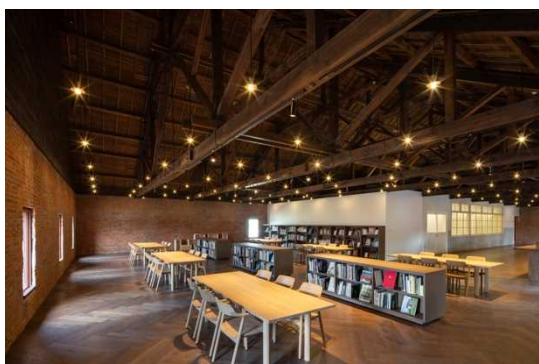


内観

[5]



[6]



広報画像には以下クレジット・キャプションを併記してください

[1] ©Naoya Hatakeyama

[2] ©Naoya Hatakeyama

[3] ©Naoya Hatakeyama

[4] ©Naoya Hatakeyama

[5] 撮影：小山田邦哉

[6] 撮影：小山田邦哉

<広報画像、取扱に関する規定>

- 広報画像の使用は美術館をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。
- 広報画像をご紹介いただく場合、指定のキャプションとクレジットを必ずご記載ください。
- 全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせは原則禁止となっております。
- 掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、可能な範囲でグラ刷り・原稿の段階で広報まで FAX またはメールでお送りください。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川（公）

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2